

秋田市大森山動物園情報誌

コミュニケーション

COMMUNICATION No.76

2008.10月号

特集1

森のびょういん

特集2

ゼニタナゴ保全活動

移動動物紹介／今年生まれたベビー紹介

飼育レポート／ふれあい写生大会／サマースクール

かたばた通信 イベント紹介・お知らせ



秋田市大森山動物園 ミルヴェ

02 移動動物紹介

03 今年生まれたベビーたち

04 特集1

森のびょういん

06 特集2

ゼニタナゴ保全活動

08 飼育レポート

アムールトラ／イヌワシ／ビーバー

10 親と子のふれあい写生大会

10 飼育日記

11 サマースクール

12 かたばた通信



表紙の写真: アムールトラ

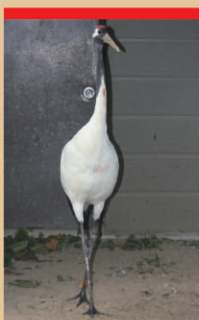
アムールトラは世界中の動物園で468頭が飼育されていますが、国内での飼育数は55頭(飼育園数25園)です。(2007年12月31日現在、日動水調べ)野生での生息数も減少していて、絶滅の危険性が高いと考えられていますが、今年の3月6日、ウィッキー(オス・8歳)とアシリ(メス・8歳)との間に双子の赤ちゃん(両方メス)が誕生しました。大森山動物園で繁殖がみられたことは大変貴重なことといえます。一般公募により、「アルル」と「ミルル」と名付けられました。(表紙はアルル。目の上の模様が、見分けのポイント。)命名してくれたのは、秋田県内の小学生兄弟。「仲のよい姉妹・兄弟をイメージして、やさしく、響きの似た名前を選びました。」とのことでした。

こんにちは さようなら 移動動物を紹介します

新



左がミッチー



タンチョウ

上野動物園から雌のミッチー(3歳)が加わりました。江戸っ子のミッチーはスタイル抜群。元気がある一方、憶病で神経質なところも。本園のシゲタとお見合いをしたところ、相性は悪くないようで、二羽の新婚生活は順調です。

担当者
から一言

野生では相性が合わないと思われがちですが、飼育下では、そうもいかず飼育担当者が相性を判断しなければなりません。ツルのペアに幸あれと願っています。

出



アオイ



マリー

シフゾウ

雄の導入が難しく、本園での繁殖が見込めないことから、借受け中の2頭のシフゾウ「アオイ」と「マリー」を多摩動物公園と安佐動物公園に搬出することにより種の保存をはかることにしました。今回の搬出により、本園でのシフゾウの飼育・展示も終了しました。

担当者
から一言

既に野生個体は絶滅し、飼育下でしか生息していない希少動物。是非、繁殖に成功してもらいたいと思います。

出



02



チンパンジー(J太郎)

平成17年11月22日にボンタとジェーンの間生まれ、これまで人工哺育で育てていたJ太郎ですが、このままでは生涯、群れに戻れなくなる恐れがあるため、同じようなチンパンジーを群れに戻した経験をもつ静岡県の伊豆シャボテン公園へ預けました。

担当者
から一言

いろいろな思い出があり、いなくなるのはやはり寂しいのですが、すべてはJ太郎のため。立派なチンパンジーになって戻ってきてほしいです。

飼育動物数

類	種数	点数
哺乳類	55	315
鳥類	49	193
爬虫類	11	28
両生類	2	8
魚類	4	15
合計	121	559

平成20年9月末現在



フンボルトペンギン

今年にはベビーラッシュとなったフンボルトペンギン。4月から7月にかけてふ化が続きました。夏も過ぎ、灰色だったヒナの羽毛は換羽して、黒い逆U字形の帯のない、ほんやりとした幼鳥の模様になりました。でも、体はもうお父さんやお母さんとあまり変わらない大きさ。個性豊かな5羽がプールで元気に泳んでいます。



キヨン 1月1日生、6月16日生

今年の1月と6月、別々の親から2頭の子供が生まれ、7頭になったキヨン。警戒心が強く、野生では群れを作らないとされるキヨンが、ここでは集団で仲良く暮らしています。6月生まれの赤ちゃんは、最初から仲間と一緒に暮らす仲間に毛繕いをしてもらっています。



コクチョウ 5月1日生

夫婦一緒に、仲むつまじく抱卵するコクチョウに今年の春もヒナがかえりました。3羽のうち2羽は残念ながら死亡しましたが、残り1羽は元気にすくすく育っています。今では両親そっくりになりました。元気に育って、立派な成鳥になってほしいものです。

このお雛様、
わん、うけたかた、
お母さん、お父さん、
お祝い申し上げます。



コモンマーモセット 3月31日生

3月31日の朝、コモンマーモセットに双子の赤ちゃんが生まれました。生まれた頃の体長は、わずか10センチ足らず。父親や兄弟を含め、家族全員が協力して子育てにあたり、大きく成長しました。最近は性格もはっきりしてきました。好奇心旺盛な女の子と、憶病で慎重な男の子。双子でも性格は正反対の2匹です。

動物のベビー
クロノクル
動物のベビー
動物のベビー



マーコール 7月19日生

7月19日、マーコールに双子のオスの赤ちゃんが産まれました。生まれた直後は、まだおぼつかない足取りでお母さんの後について展示場の段差を登る練習をしていましたが、最近では段差を気にすることなく、元気に駆け回っています。オスにはぐるっと巻いた大きな角がありますが、お父さんのような立派な角を持つ大人に育ってほしいものです。

今年生まれた、たくさんのおベビーたち。

訃報 ライオン「カズ」6月3日没

オスのライオン「カズ」(6歳)が腎不全で死亡しました。昨年の8月、メスの「マンゴ」との間に、オスとメスの双子が誕生。じやれ合っ一緒に遊んだり、家族で日光浴をするなど、優しいお父さんでした。5月上旬から体調を崩し、投薬や点滴により治療を続けていましたが、6月3日夜、飼育員や獣医師の前で眠るように息を引き取りました。飼育下では約20年は生きるといわれるライオン。早すぎる死が残念でなりません。



森のびょういん

動物健康管理センター「森のびょういん」が完成しました!



平成20年3月、動物健康管理センター「森のびょういん」が竣工しました。「森のびょういん」は、診察・手術室と検査室、そして入院室の一部が園路からご覧いただけるようになっています。動物の治療・看護についての関心が高まるなかで、動物園での仕事の一端をご覧いただいて、より理解を深めていただこうというものです。新しい施設の建設にともない、新たな診察・検査機器も導入しました。また、診療・検査室と入院室が隣接しているため、これまでよりも迅速な治療と検査ができるようになっています。ここでは、普段ご覧いただけない内部の様子も併せてご紹介します。

- 建物概要**
- 建築面積：408.22㎡
 - 延べ面積：376.83㎡
 - 階数：1階（平屋建）
 - 構造種別：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
 - 事業費：153,158千円



治療の様子

③ 診察・手術室

動物の診察と手術を行う部屋です。麻酔器や无影灯など、おなじみの医療器具が設置されています。



④ 検査室

血液や糞などの検査をします。顕微鏡や遠心分離機などの検査機器を設置しています。



⑤ X線撮影室

レントゲン撮影室です。最新のデジタル方式で、人間用と同じものです。



⑥ 解剖室

死亡原因を調べるため、病理解剖を行います。遺体の保管用に大型の冷凍・冷蔵庫が併設されています。



⑧ 屋外運動場

⑦の病室とつながっている屋外運動場で、また日当たりが良いように、南向きとなっています。ドアの開閉により隣同士の運動場をつなげて、広く使うこともできます。



⑦ 病室

主に小動物用の病室です。色々な種類の動物たちがケージに入って入院中です。



入院中のリスサル



病室を通路から見た様子

② バードケージ

治療中の鳥を収容するケージです。



入院中のオオタカ

① ビューポイント

診察の様子などがご覧いただけます。

※ビューポイントでは、お客様に病院内部の様子を自由にご覧いただけます。(状況により、ご覧いただけない場合があります。)



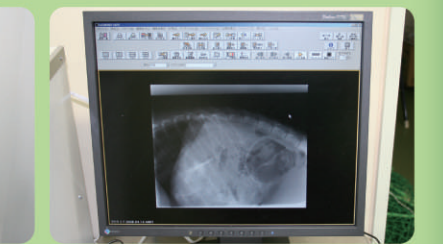
①から見た診察室・手術室

森のびょういんでの治療

獣医師 安永 千秋



X線画像コンピュータ解析装置。映してすぐ画像が見ることができます。



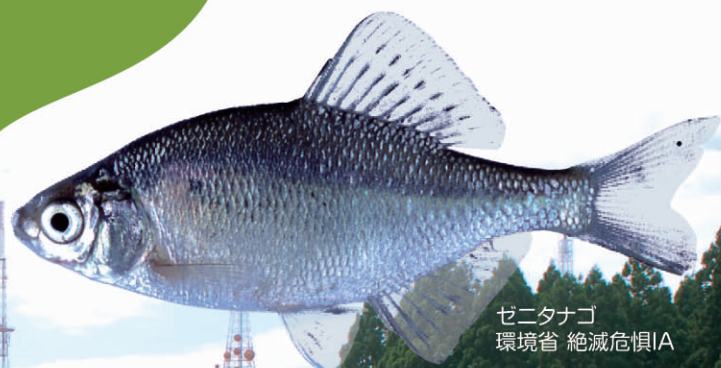
カモシカのレントゲン画像。デジタル処理方式なのでパソコンの画面で鮮明に確認できます。

3月に完成した「森のびょういん」。入院動物の第一号は野生のニホンカモシカでした。まだ以前の病院からの引越しが済んでいなかったのですが、衰弱しており、しっかりと立てない状態で保護され、動物園に運び込まれたため、急遽入院となりました。新しい病院の入院施設は、カモシカくらいの大きさの動物までは入院できる大きな病室があります。この衰弱したカモシカには、早速点滴などの治療を行い、さらに詳しく調べるため、レントゲン検査なども行いました。これまでのレントゲン検査では古い器械で扱いにくく、苦勞していたのですが、新病院の完成とともに

新しい器械が入り、細部までしっかりと検査が行えるようになりました。レントゲン検査では特に異常が認められなかったため、点滴治療を数日間続けたところ、少しずつ餌も食べてくれるようになり、何とか退院となりました。退院後は、秋田県の鳥獣保護センターに移送しましたが、残念ながら後に亡くなってしまったとのこと。

野生動物の命を救うことは簡単なことではなく、その難しさを痛感している毎日ですが、この新しい病院を拠点に、少しでも動物が元気に過ごせるように頑張りたいと思います。

ゼニタナゴ 保全活動



ゼニタナゴ
環境省 絶滅危惧IA



塩曳潟

ゼニタナゴは日本固有の種で、現在では本県を始めとする数県にのみ生息する希少種です。環境省と秋田県では、絶滅の危険性が最も高い種に指定しています。大森山動物園では、平成15年に園内にある沼塩曳潟で、ゼニタナゴの生息を確認して以来、その保全に取り組んでいます。最近の活動をご紹介します。



シンポジウムの様子

ゼニタナゴ・シンポジウム

ゼニタナゴの保全活動の一環として、平成20年6月29日、ゼニタナゴの生態と保全のあり方や自然との共存などについて考えていただくことを目的に、「ゼニタナゴ・シンポジウム」を開催しました。

シンポジウム冒頭の基調講演では、社団法人観音崎自然博物館研究員の北村淳一さんから、貝に卵を産み付ける貴重な映像を交えながらタナゴ類の生態解説をしていただきました。また、秋田淡水魚研究会代表の杉山秀樹さんからは、ゼニタナゴが存在する意義と、それを公開しながら保全し、次代へつなぐ取り組みについて紹介していただきました。

後半のパネルディスカッションでは、両氏に元秋田県鳥獣保護センター所長の泉祐一さんが加わり、当園の小松守園長をコーディネーターとして、それぞれの立場から発言していただきました。

ゼニタナゴ保護池の活動

大森山動物園にある塩曳潟にも、近年、侵略的外来生物のアメリカザリガニが入り込んでいます。これは塩曳潟にすむ生き物にとって大きな脅威です。事実、平成15年の水生物調査では、ゼニタナゴが産卵する小さなドブガイがあまり見つかりませんでした。ザリガニが小さな貝を掘り起こしたり、食べてしまったためと考えられます。寿命が1年～2年と短く、また、母貝の中で卵から稚魚まで、約8ヶ月もの長い期間を過ごすゼニタナゴにとって、産卵床であり、安全なゆりかごでもある母貝の消滅は致命的です。



タナゴとドブガイ

大森山動物園では、平成18年、日本動物園水族

館協会の野生動物保護基金により、ゼニタナゴの保護池を造り、ゼニタナゴと母貝となるドブガイも併せて隔離して保護することにしました。保全活動を指導していただいている、秋田淡水魚研究会代表の杉山秀樹さんによると、貝の中の卵と稚魚になってからの一定期間を守ってやることで、自然界に戻した後の親魚への成育率が高まるようです。



ゼニタナゴの保護池

館協会の野生動物保護基金により、ゼニタナゴの保護池を造り、ゼニタナゴと母貝となるドブガイも併せて隔離して保護することにしました。保全活動を指導していただいている、秋田淡水魚研究会代表の杉山秀樹さんによると、貝の中の卵と稚魚になってからの一定期間を守ってやることで、自然界に戻した後の親魚への成育率が高まるようです。



マーキングしたタナゴ

この保護池には、平成19年春に塩曳潟で捕獲した稚魚約280尾を放流し、育成しました。秋になって、育った稚魚100尾に印をつけて塩



繁殖したドブガイ

曳潟に再放流しましたが、まだ幼いタナゴたちが、本来の場所に向けて一斉に泳ぎ出す様子は、感動的でした。また、保護池の底から、その年生まれとみられる小さなドブガイもみつき、保護池の母貝を保護する機能を確認する



稚魚の群れ



子どもたちとの活動

こともできました。さらに、今年の春には、初めて保護池生まれの稚魚を500尾以上も確保することに成功しました。

ゼニタナゴの保全には、個体数の安定的な確保と外敵の排除が必要です。現在は保護池での増殖に加え、市民や地域の子どもの手も借りながら、アメリカザリガニの駆除にも取り組んでいます。根絶は困難ですが、その影響を少しでも低減したいとの思いで実施しています。

塩曳潟は自然界の タイムカプセル

塩曳潟では、ゼニタナゴのほか、同じく絶滅危惧種の淡水魚、シナイモツゴやアカヒレタビラの生息も確認されています。絶滅危惧種の存在は、自然度のバロメーターともいえます。他の地域では消えつつある自然が、塩曳潟には残っているのです。塩曳潟は、いわば自然界のタイムカプセルなのかもしれません。

ゼニタナゴの保全は、大げさではなく、地域の自然環境や生物多様性の保全につながる活動です。その期待と共に、責任も大きいのですが、我々が受け継いだ貴重な自然を、次代へ繋ぐために努力していきたいと考えています。



シナイモツゴ
環境省 絶滅危惧IA



アカヒレタビラ
環境省 絶滅危惧IB

1 アムールトラの赤ちゃん誕生

飼育展示担当 宇佐美 均

大森山動物園では2005年3月からアムールトラの飼育展示を行っています。

当時はオスの「ウィッキー」(9歳)1頭だけでしたが、希少動物の繁殖を目指すため、2007年3月に東京都の多摩動物公園からメスの「アシリ」(9歳)を借り受け、2頭での飼育が始まりました。

10月に同居を始めて直ぐ、繁殖行動等も観察され、早々に2世誕生への期待が膨らみました。

12月になり、これまで定期的に観察されていたアシリの発情兆候が見られなくなりました。もしかして?と半信半疑ではありましたが、妊娠を想定して出産に向けた準備を始めました。

過去に3回の出産経験があるアシリですが、当園での出産は初めてであり、落ち着いて出産・育児ができるよう、念入りに環境づくりを行いました。

トラの妊娠期間は平均103日。計算すると、出産予定日は平成20年3月4日と考えられました。

出産予定日の当日も朝から落ち着いており、餌も完食し、出産の兆候はまったく見られませんでした。「今回はダメだったのかな」と思い始めた2日後の3月6日、気分転換させようと朝に1時間ほど外へ出してあげました。これが良かったのか、夕方から産箱の中で落ち着きなく動きまわったり、転がる行動が観察され、餌も食べず、明らかにいつもと違う様子で、出産が近いことを感じさせました。

そんな状態が少し続いた後の午後6時30分に1頭目、午後8時40分には2頭目と、かわいいメス2頭の赤ちゃんが無事に生まれました。直ぐに授乳も確認され一安心。その後も順調に授乳や子供の体を舐めてあげる等の親子関係が観察され健やかな成長が伺えました。

生後半年余りになる今では、「アルル」「ミルル」とかわいい愛称もつけてもらい、母親アシリを狩りの練習相手にして飛びかかったり、餌を独り占めしようと威嚇行動を見せたりと、毎日元気に動き回っています。体の成長、猛獣としての迫力も身に付いて来ているようです。



生まれた次の日の様子
おっぱいを飲んでいます



3月17日撮影
まだ、産箱内で育っています



6月3日撮影 展示場に出始めた頃



8月30日撮影 アルル
どんどん大きくなっています



お見合いが成功して仲の良いウィッキーとアシリ

2 新たなチャレンジ「イヌワシを間近で」

飼育展示担当 佐々木 祐紀

イヌワシが大森山動物園で繁殖し始めて5年目を迎え、これまでに7羽のヒナが無事に育ちました。本来イヌワシは2個の卵を産み、2羽がふ化してもヒナ同士の争いで1羽のヒナしか育たない現実があります。試行錯誤の末、複数のヒナを育てる方法を編み出し、全てのヒナを育てることに成功しました。今年もヒナがふ化し、今回は人の手で育てる新たな試みに挑戦しました。

イヌワシは遠くにとまっている印象が強い、なかなか近くで見ることの出来ない動物です。「大きさを実感してもらいたい」、「間近で見てもらいたい」との思いから、人の手で育てる試みに挑戦しました。大森山では前例のない試みのため、試行錯誤しながら進めました。

ヒナは「風(ふう)」と名付け、風の人の手から餌をもらう生活が始まりました。餌にはすぐ反応し、嫌がることなくよく食べ安心。定期的に園内で日光浴をしながら、環境にも慣れていけるようにしました。弱々しい「風」も日に日に大きくなり、少しずつ黒い羽根も見られるようになりました。順調に育ってはいたものの、立ち上がるまで思っていた以上に日数がかかり、大丈夫なのかと心配でたまりませんでした。それでも生後約1カ月でやっと2本足で立ち、力強さが感じられるようになりました。ようやく立ち上がった時は本当に嬉しく思いました。その後もどんどん成長し、親元で巣立ちを迎える生後2カ月半頃には親と同じような姿になり、体重も約3kgまでに成長しました。だいぶ人に慣れてはきているものの、長い時間、落ち着いた状態で大勢の人前に出るのにはまだ少し時間がかかりそうです。近い将来、お客様の目の前で「風」の勇姿を見せていけたらと思っています。



誕生より9日目 飼育員よりエサをもらっている様子



生後約7カ月
飼育員の手にとまる様子

3 アメリカビーバー 初めての出産と子育て

飼育展示担当 菅野 達也

今年の6月に、アメリカビーバーのメスのモリコが、子どもを出産しました。

モリコは3歳とまだ若いこともあり、今回が初めての出産でした。そのため、無事に出産でき、そしてちゃんと子どもを育てられるだろうか、という不安がありました。

そんな心配をよそに、モリコは無事2頭の子どもを出産し、その後も丁寧に子どもたちを育てました。毛づくろいをして子どもの体をきれいにしてあげたり、母乳を飲みやすいようあおむけになって寝たり、子どもをプールから室内にくわえて運んであげたりと、初めての出産とは思えないほどしっかりと子育てをしていました。

そんなモリコが母親になってから変わったことがあります。それは、担当者が近くにいると気にしなくなったことです。肝が据わったと言えはよいのでしょうか。もしかしたら、子育てにかなりの労力を費やしていたので、ほかのことを気にする余裕がなかったのかもしれません。

子どもたちはそんな母親のもとですくすくと育ち、いまではすっかり離乳し、親たちと同じものをもりもり食べています。もう赤ちゃんと呼べるような大きさではなくなり、ひとりで行動する時間も増えてきました。今、育児が一段落したモリコは、ゆったりのんびりと、きままに毎日を過ごしています。モリコ、お疲れさまでした!



生まれて数日後の赤ちゃん



兄弟ですくすく成長中!



子供たちを運ぶモリコ



授乳中の様子

第31回 親と子のふれあい写生大会
入賞作品

平成20年7月29日に第31回親と子のふれあい写生大会が開催されました。あいにくの雨模様でしたが、力作ぞろいの224件の作品を提出していただきました。以下のとおり入賞作品が決定し、8月24日に園内ミルヴェ館で表彰式が行われました。



秋田市長賞

「なぞのアオダイショウ」
 須藤 創太 さん

講評

うるこのわずかな色のちがいを自分で感じ取った色で、カラフルに表しています。絵の具をはじくクレヨンの効果を上手に生かして、一枚ずついねいにかき分けたうるこの模様がヘビの感じをよく出しています。くねくねとした動きもよくつかんでいます。背景の草の動きや色もよく合っていて、主役のヘビを引き立てています。カラフルで楽しい作品になりました。



秋田市議会議長賞

「気高き狼」
 椎名 朱莉 さん

講評

りんとしたふんい気、まっすぐに見つめる目は、気品と風格を感じさせます。人を寄せ付けないオーラさえでています。毛並みとその色の変化は、心をこめた表現方法で好感がもてます。



秋田市教育長賞

「ぶら下がりポリビアリスザル」
 松田 千尋 さん

講評

「ポリビアリスザル」の表情がとてもいいですね。いたずらっ子のような顔で、こちらを見ている様子がよく表されています。サルのはさふさした毛並みも、毛の流れをよく観察して、いろいろな色で丁寧に書きましたね。背景もとってもがんばりました。

この他に、秋田市大森山動物園長賞が6名、秋田市造形教育研究会賞が2名、AKT秋田テレビ賞が5名、ぺんてる賞が6名、アニバ賞が3名、特別賞が5名、入選が25名、佳作が25名の方々が入賞されました。おめでとうございます。

※講評は共催の秋田市造形教育研究会の先生方によるものです。

イベントレポート
サマースクール

恒例のサマースクールが8月2日と4日に開催されました。このイベントは、動物園の持つ役割のひとつである教育普及活動の一環として毎年開催しているものです。動物園で飼育されている様々な動物と接する機会を通じ、本や映像からでは得ることのできない生き物のおいしさや鳴き声を実際に体験し、生命の尊さや動物の生態等を理解してもらうとともに、環境教育についても関心をもってもらうことを目的としています。今年で34回目を迎え、大森山動物園でも長い歴史のあるイベントです。



写真1 ソウ飼育体験

写真2 ビーバー飼育体験

写真3 ミルヴェ館で学習

写真4 トラ食事風景観察



写真5 ミニチュアホース食事観察



写真6 修了証書とクジャクの羽

事前に申込をいただいた、小学4年生から大人の方まで、2日間合わせて約50名の方にご参加いただきました。

まず始めは、開会式。スクール中に注意することの説明や、職員の自己紹介などを行いました。その後はグループに別れて、それぞれ担当になった動物たちの飼育作業を行いました。展示場等の清掃や給餌などを、飼育員の指示に従って行いました。写真1はソウの室内展示場の清掃の様子です。広い展示場をデッキブラシでこすり、汚れを落とす、力のいる作業です。写真2はビーバーの飼育作業の様子。間近でビーバーを観察中。動物の観察も大事な飼育員のお仕事です。

昼食をはさんだ午後は、最初に、動物の本物の頭の骨を見ながら、動物による歯のつくりやエサの違いをみんなで学習しました(写真3)。学習の後は、実際の動物達の食事風景を近くで見ながら、勉強したことを再確認。写真4はトラの食事の様子を間近で観察しているところです。普通はこんなに近くで見ることができません。こんな貴重な体験ができるのもサマースクールの醍醐味です。写真5はミニチュアホースの食事の様子を観察中。草食動物と肉食動物で

は食べるものが違うので、全く違う歯の作りをしています。机上で学習したことを、実際に目で見て、確かめる事で、より深い理解と感動があります。

全部の日程が終了し、最後は閉校式を行いました。参加者全員に修了証書と記念のクジャクの羽(写真6)が渡され、サマースクールは無事終了しました。

来年もまた開催の予定です。内容はその年によって変わる場合がありますが、毎年参加される方にお楽しみいただいています。ご興味のある方は、次回に是非、お申込みください。

飼育日誌から (H20年4月～8月)

飼育職員が日々記録している飼育日誌の一部を抜粋してご紹介します。

- 4月2日 ●コモンマーモセット仔 父母それぞれについている。夕方母授乳。ユキ♀も面倒みている。
- 4月7日 ●アムールトラ仔 体重測定 5.35kg、5.25kg 健康状態良好。
- 4月8日 ●アムールトラ 通路への扉をオープンに少し運動させる。仔もアシリと一緒に通路へ出てきた。
- 4月12日 ●イヌワシ第1ヒナ 本日より保育器から出し広めの囲いの中で育雛開始。体重990g。
- 4月13日 ●ムフロン(♀シオン) 1頭出産。
- 4月14日 ●ムフロン仔 体重測定 2.7kg、オスと確認。
- 4月16日 ●ペンギン 外G巣ペアの1卵目孵化。鳴き声姿共に確認。
- 4月24日 ●イヌワシ第1ヒナ 三歩くらいの起立歩行あり。
- 4月28日 ●クジャク♂3羽 ディスプレイ(羽を広げ求愛)さかん。

- 5月3日 ●リスザル てんかん個体に夕方投薬。
- 5月6日 ●ペンギン 外G巣ヒナ 親の半分くらいの大きさまで成長。
- 5月14日 ●ライオン(カズ) 朝に前日給餌の馬肉を嘔吐。元気もないため終日室内に。吹矢で投薬。
- 5月15日 ●チンパンジー(J太郎) 朝シャボテン公園へ無事出発。
- 5月17日 ●イヌワシ第1ヒナ 体重2840g 周囲に気が向き、エサに興味を示さない。
- 5月22日 ●トラ母仔 屋外展示訓練。母アシリは数回外に出るが、仔2頭は通路で止まる。
- 5月28日 ●トラ母仔 屋外展示訓練。仔は広範囲に活発に動く。
- 5月31日 ●ライオン(カズ) 残餌あり。朝の餌も食さない。午後の牛骨には少し反応していた。●イヌワシ第2ヒナ かなりの頻度で巣の外へ出ている。
- 6月3日 ●ライオン(カズ) 朝より横になったまま動かさず午後麻酔により治療。19:20死亡確認。

- 6月6日 ●ビーバー(モリコ♀) 15:00頃2頭出産。
- 6月7日 ●イヌワシ(第2ヒナ) 5:40に巣立ちする。
- 6月12日 ●フビチ(父♀) 5/28に一部折れた右角の治療を行う。
- 6月14日 ●ゾウ(花子♀) 放飼前の地震で朝の調教中少し落ち着かず。日中は落ち着いていた。
- 6月15日 ●トラ(母仔) 元気に展示場内を走り回る。アルル(仔)牛骨をなめる。
- 6月18日 ●ペンギン(外G巣ヒナ) プールで初めて泳ぐ。上手に泳いでいる。
- 6月23日 ●ホンドフクロウ(フクジロウ) 換羽により尾羽すべて抜け落ちる。
- 6月24日 ●シマゾウ(マリイ♀) 多摩動物公園へ、(アオイ♀)安佐動物公園へ搬出。
- 6月25日 ●プレーリードック舎 はらぺこハウス設置。
- 6月30日 ●ウサギ(アーリー♀) 歯の矯正を行う。
- 7月1日 ●コンゴウインコ 各個体体重測定。
- 7月5日 ●ビーバー母仔 3頭ともプールに出ている。

- 7月6日 ●カナダヤマアラシ 暑いので朝から水のペットボトルと天井シャワーを使用。
- 7月12日 ●ビーバー 子供の1頭が白菜の柔らかい部分を食べる。
- 7月17日 ●シロフクロウ・ワシミズク舎の砂の入れ替え作業。
- 7月19日 ●マーコール(ヤワラ♀) 2頭出産。両方オス。
- 7月24日 ●マーコール(ヤワラの仔) 元気あり。展示場に便を数力所確認。
- 8月5日 ●トナカイ 暑さのため小屋の中から出てこようとしない。食欲はあり。
- 8月12日 ●ビルマニシキヘビ 脱皮あり。
- 8月14日 ●チンパンジー舎 室内展示場に遊具を設置。
- 8月15日 ●ユキヒョウ 夜の開園時の夜間動きがよい。
- 8月22日 ●ムツアシガメ 午後50分ほど外で日光浴させる。
- 8月27日 ●タンチョウ(シゲタ♀、ミッチー♀) お見合いをしていたが同居させる。攻撃する気配はなし。
- 8月28日 ●トラ(仔) 遊具として展示場に置いたパイで活発に行動。母アシリも利用。

かたばた通信



夜の動物園を今年も開催しました

毎年好評の「夜の動物園」。今年も8月14日から17日の間に開催されました。日中とは違う、動物たちの動きはとても新鮮です。園内では、軽食やお菓子などの出店もたくさんあり、夕涼みをしながら、家族で、グループでお楽しみいただきました。



いつもと違う表情の動物たち。左はフラミンゴ。右はアライグマ。

お知らせ

さよなら感謝祭を11月30日に開催

今年の通常開園の最後の日となる、11月30日に皆様と動物達への感謝の気持ちを込めて、「さよなら感謝祭」を開催します。動物慰霊祭や特別なイベントなどを予定。今年最後の大森山動物園に是非お越しください。

昨年度の慰霊祭の様子



宝くじ遊園(仮称)が21年3月に完成予定!

日本宝くじ協会の宝くじ普及宣伝事業の一環として、大型遊具を園内の草食動物の展示場近辺に建設します。今年の10月に着工し、来年の3月に完成、4月公開の予定です。どうぞお楽しみに!



完成イメージ図

雪の動物園を開催

毎年好評の冬期開園「雪の動物園」を今シーズンも開催します。銀世界での動物の表情を是非ご覧ください。

- 平成21年の1月4日から3月1日までの土日祝日
- 開園時間 / 11:00~15:00 (入園は14:30まで)
- 入園料 / おとな (高校生以上) 300円
中学生以下無料
パスポート利用可



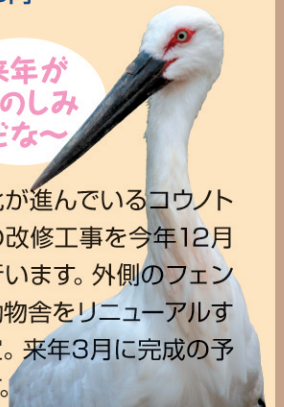
来年が
たのしみ
だな~

コウノトリ舎改修



現在のコウノトリ舎

老朽化が進んでいるコウノトリ舎の改修工事を今年12月から行います。外側のフェンスと動物舎をリニューアルする予定です。来年3月に完成の予定です。



これからの導入予定動物

今年の10月にレッサーパンダのオス1頭を千葉市動物公園から、11月にカピバラのメス1頭を埼玉県子ども動物自然公園から搬入する予定です。新しい個体の導入によって、繁殖が期待されます。詳細が決まりましたら、大森山動物園HP等でお知らせします。



レッサーパンダ



カピバラ

どよよよ
増えるかな?
新しい仲間が